

第17回 西日本国際財団アジア貢献賞審査委員会ノミネート団体・個人一覧

■ NPO 法人ヒーリングファミリー財団

国際協力・障がい者支援センター 愛のかけはし

代表：大垣内 勇

設立：2009年

活動地域：タイ、佐賀県多久市

日本で使用しなくなった車椅子を障害者施設から譲り受け、小学校や放課後児童クラブ、福祉作業所等で磨き上げてもらい年2回実施するスタディツアーでタイに届けている。また、タイでの介護技術講習、タイの障がい者が製作したコースターの売上を東日本大震災被災者に寄付する等交流が広がっている。

■ 井本 勝幸 氏

活動開始：2011年

活動地域：ミャンマー、タイ、福岡県朝倉市

大学在学中に難民救済のNGOに参加し、途上国の難民問題に関わった後、28歳で出家。ミャンマーの少数民族の自立のため、妻子を日本に残し単身でミャンマーでの農業支援・人材育成等の活動を続けるとともに、少数民族と政府との仲介役や日本人兵士の遺骨収集に協力している。

■ 岩田 亮子 氏

活動開始：2009年

活動地域：カンボジア、福岡県福岡市

2008年、カンボジアのバタンバンにある劣悪な環境の孤児院を訪問し衝撃を受け、翌年カンボジアへ移住。自給自足のための農業指導、生活用水の浄化、健康管理、情緒教育、縫製工房やカフェレストランを立ち上げるなど、孤児の自立支援に向け活動を継続している。

■ 北九州ハングル弁論大会実行委員会

代表：金 桂満 氏

設立：2001年

活動地域：福岡県北九州市

北九州市内に設立した4か所の韓国語講座間の連携の必要性を感じ、講師の会アンニョンハングル研究会を設立。研究会で学習者の発表の場、人材育成等を目指し弁論大会を開催した。「言葉は文化であり、文化は心である」をスローガンに、言葉を通して、韓国との相互理解と交流を増進し、心の通う友好と親善を目指して活動を行っている。

■ 国際交流協会 西端塾

代表：岩波 利英 氏

設立：1997年

活動地域：タイ、長崎県佐世保市

途上国の貧困の実情を知り、地域や国際社会に貢献しようと同会を設立。空き缶のプルタブを収集・換金し、バザーの収益金とともに義足が買えない子どもたちのためタイの義肢制作財団での義足制作、孤児院、山岳部族の水道や発電機等ライフライン設置等の支援を14年にわたって行っている。

■ 福岡帰国留学生交流会

会長：林 安徳 氏

設立：1993年

活動地域：福岡県福岡市

1991年にタイの元福岡留学生14人と交流した際に、日本・福岡の人々との絆を保ち続けたいと思っていることに感動。会員希望者を募り毎年福岡の地で学んだ元留学生の国を訪問、彼らの職場、学校等を訪ね懇親会、意見交換会を開催している。また地域によっては同窓会組織が発足、福岡との絆が深まるきっかけとなっている。

■ 学生NGO PRENGO

代表：坂上 英 氏

設立：2003年

活動地域：タイ、大分県別府市

2003年、立命館アジア太平洋大学の学生たちが、タイのラヤン県マハド地区での地域開発、教育支援を目的に活動を開始。アジアの留学生も交え、先輩から後輩に受け継ぎながら13年にわたり、学生団体とは思えない高度な理念・方法論で自立支援や教育支援を実施している。

※上記7団体・個人は第17回アジア貢献賞に推薦された22団体・個人の中から候補者選考委員会（第1次審査）にて審査委員会の審査対象としてノミネートされた先です。

（五十音順）

第11回 西日本国際財団アジアKids大賞審査委員会ノミネート団体・個人一覧

■ 宇美町教育委員会

教育長：山本 浩 氏

活動開始：1986年

活動地域：韓国・扶餘郡、福岡県宇美町

1986年に「第1回宇美町少年の翼」事業として同町の子どもたち80人が、韓国の扶餘郡を訪問し相互交流を図ったことをきっかけに約30年間にわたり相互交流を継続、延べ572人の子どもたちが韓国を訪問。一方、2014年までに延べ205人の扶餘の子どもたちを受入れている。

■ 日韓親善子供大使友好の翼実行委員会

代表：山口 紀史 氏

活動開始：1991年

活動地域：韓国・釜山広域市

1991年、溝辺町の陵南小学校と韓国釜山広域市の培英初等学校が絵画交流を開始。翌年には陵南小学校の児童が韓国を訪問。1996年からは培英初等学校も溝辺町を訪問するなど相互交流を行っている。事業を通じて、日韓の友好親善及び、国際感覚あふれる青少年の健全育成に深く寄与している。

■ 国際交流ひらかわの風の会

会長：中村 幸士郎 氏

活動開始：2004年

活動地域：山口県山口市

2004年、地域で留学生家族の日常生活をサポートするために「国際交流ひらかわの風の会」を設立。2012年には外国人親子が同年代の地域の親子と日常生活に必要な日本語や外国語会話を学び合う「Kids Club かぜ」をスタートさせるなど国際交流を継続している。

■ 宮古島市立下地中学校

校長：久高 三彦 氏

活動開始：1999年

活動地域：台湾、沖縄県宮古島市

1999年、トライアスロン選手が同校に宿泊したことがきっかけとなり、17年間で160人の生徒が台湾を、漢口國民中學の生徒95人が宮古島を訪問。文部省プロジェクトによるサポートも受け、IT・スカイプを駆使してホームステイ実施前から家族との交流を深めている。

※上記4団体・個人は第11回アジアKids大賞に推薦された9団体・個人の中から候補者選考委員会（第1次審査）にて審査委員会の審査対象としてノミネートされた先です。

（五十音順）